

令和7年12月から令和8年2月にかけて、大洲市および平野地区自主防災組織と連携し、愛媛県大洲市平野町の5地区（本谷日・本谷影・大根・明日香・富元）の地区防災計画に関する避難訓練およびワークショップを開催しました。ワークショップでは、地域で想定される土砂災害について理解を深めた後、避難経路や避難場所、地域でできる災害への備えについて地区ごとに意見交換を行いました。2回にわたるワークショップで出された意見を踏まえ、各地区の実情や特有の災害リスクを反映した地区防災計画の更新案および土砂災害に特化したハザードマップ案を作成しました。

対象地区

愛媛県大洲市平野町（本谷日・本谷影・大根・明日香・富元）

避難訓練・第1回ワークショップ

2025年12月13日（日）参加者約50人

第2回ワークショップ

2026年2月15日（日）参加者約20人



地区防災計画は、地域コミュニティにおける助け合いについて地域住民が自ら策定する防災活動計画のことです。災害対策基本法が平成25年に改定され、市町村防災会議の承認を得ることで、市町村地域防災計画に位置づけることが可能となりました。制度開始以降、各地で計画が策定されてきましたが、地すべりをはじめとした土砂災害リスクを反映させた事例はまだ多くありません。四国山地砂防事務所では、土砂災害に関する知見を活かし、地域特有の土砂災害リスクを地区防災計画に反映させるための支援を行ってきました。3箇所目となる大洲市平野町では、令和6年9月に策定された地区防災計画に、土砂災害リスクを反映させることを目標として支援を実施しました。今回の支援で策定された地区防災計画は、来年度に平野町から大洲市の防災会議に提出され、大洲市地域防災計画として位置づけられる予定です。

二宮市長からのコメント

大洲市では、肱川における水害に注目が集まりがちだが、一方で土砂災害リスクも高い地域なので、専門的な知見のもと支援してもらえたことはよかった。今回作成されたハザードマップに、各家庭で緊急連絡先やとるべき行動などの情報を追記してもらい有効に活用してほしい。

ワークショップ参加者の意見

- ・ 今後は、地域の清掃日などを活用して、年に1回程度防災について地区で話合う時間をつくりたい
- ・ 避難所の名称は、公式なもの地域になじみのある名称を併記する
- ・ 消防団としては、ハザードマップに世帯名も記載されていると避難呼びかけの時に役に立つ
- ・ 避難先にある防災用の備品を確認して、不足しているものを揃えたい

大洲市立ち会いのもと、今回の支援で作成された地区防災計画の更新案を平野地区自主防災組織の会長にお渡ししました。会長からは「今回の経験を活かし、今後数年かけて地区内のほかの地域でも計画の更新を行っていきたい。」とコメントをいただきました。